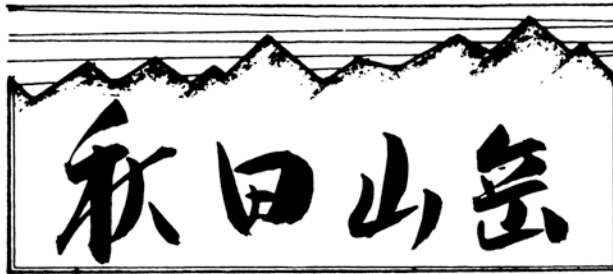


2022



令和4年10月 発行

No. 124

社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市土崎港北
5-3-40 鎌田方

TEL・018-846-8150

発行 秋田支部
編集 鈴木裕子

保坂隆司氏追悼

保坂隆司名誉顧問を偲ぶ 佐々木民秀

保坂隆司さんの訃報を知ったのは、本会経由で支部事務局からであった。入院されているとの事を耳にしていた矢先でもあり、只々驚くばかりであった。

平成二十一年十一月に、鶴の湯温泉で行われた設立五十年記念式典に、わざわざ熱海市からご出席していただき、講演して頂いたあの元気な笑顔が目に残る。

本会永年会員で、当支部の名誉顧問でもある保坂さんは、堅実で几帳面、人情の篤い知識人で、優れた登山感を抱く岳人でもあり、私は今日までの長い間、師として仰ぎ、登山の人生を歩ませて頂いてきた経緯があり、そのご逝去は真に残念でならない。

保坂さんの名前を初めて知ったのは、昭和三十三年に山と溪谷社で発行されたガイドブック「東北の山旅」で執筆されていた鳥海山等を読んだ事であった。山登りに夢中になっていた私にとっては唯一の参考書でもあり、文中の太平山不帰ノ沢や鳥海山北壁等には特に感銘を受け、後に実



践させて頂いたものである。また、初めてお会いしたのは昭和四十年の支部総会の時で、この頃の私は「AAC十五周年記念誌」を編纂していた時でもあり、創立会員でもある保坂さんに秋田国体についての寄稿をお願いしていた。また、同四十三年の荒巻廣政初

代支部長が、故郷の流山市に帰郷されるに当たっての送別山行・仁別国民の森で一緒にあったりもし、その頃から特に親交を深めさせて頂いてきたと記憶している。

昭和二十五年に、秋田県初の第五回静岡国体山岳部門にリーダーとして参加された保坂さんは、その帰省後に友志と共にアキタ・アルパインクラブ(AAC)を結成され、その翌年には身魂を傾けて秋田県山岳連盟の創設に携わり、初代理事長として登山技術の向上と登山知識の普及に尽力され、県岳連の発展に大きく貢献されてきた事は周知の通りである。

特に、昭和三十六年の第十六回秋田国体では、前年に登山部門実行委員会を発足させ、その事務局の主役となって大会を成功裡に導いた事は、保坂さんの登山人生の中でも最大の業績であったと思う。保坂さんと山行を共にした事は数少なかったが、支部運営に当たっては、数多くの時間を割いて頂きご指導を頂いた。

特に思い出に残るのは「支部設立四十周年記念誌」の編纂に当たった事である。平成十年の秋頃に、翌年に迎える設立四十周年の記念誌に、何か主題になるものはないかと思索していたところ、支部設立に保坂さんと共に企画された福田文二さんから、明治時代に画人の平福百穂が日本山岳会の会員であったとの事を生前に聞かされていたのを思い出し、明治から支部設立の年までの秋田県に關係する全ての会員を調べ、その経歴を纏めてみようかと保坂さんに相談したところ、早速快諾を頂き、記念誌の編纂をスタートさせる事が出来たのである。

また、調査に当たっては、この頃、本会創立百年記念事業の一つとして、百年史委員会が発足しており、その委員長でもある松田雄一元副会長に、年次晩餐会の席上に於いて保坂さんとこの旨の協力をお願いし、快く承諾して頂いた



設立 50 周年記念
祝賀会で挨拶

ものであった。
そして、松田さんが尽力されて調べ上げた資料も含めて、保坂さんが「会員列伝」と題して纏め上げ、設立四十周年記念誌に飾らせて頂いたのである。
その後、保坂さんは本会百年史編纂委員として、松田委員長のもとに、日本山岳会百年史の「日本山岳会支部の設立とその歩み」と「会室の変遷」、その資料編では支部関係を、集会関係では南川金一委員とで纏め上げた次第である。
尚、前述の「会員列伝」が、百年史編纂委員会の活力に大いなる刺激を与えていたという事を、後日になって南川さんから知らされていたが、これも保坂さんの努力の賜であり、その百年史は、保坂さんにとって本会における最も大きな仕事であったと思う。
最後に、これまでのご厚情とご指導に感謝申し上げます、衷心よりご冥福をお祈り致します。(合掌)



設立 40 周年記念式典時、男鹿半島を観光
佐々木 長岩 松田副会長 保坂氏 鈴木

保坂隆司氏

熱海市

永年会員

支部設立会員・名誉顧問

昭和三十三年四月入会

会員番号 四六六三

昭和三十四年度〜三十八年度

常務委員

昭和三十九年度〜四十三年度

監事

昭和四十七年度

顧問

平成十一年度

名誉顧問

平成十九年度

永年会員

令和三年十二月五日逝去

(享年九十才)

二〇二二年発行「山岳」一一七の追悼に掲載される。

保坂さんのこと 鈴木裕子

私は高校時代(昭和三十七年)に発足した女性だけの山岳会「やまぶき会」の会員であった。その研修会の講師の一人であった保坂さんの講義を受けたことがある。その時のガリ刷り講習会資料は、捨てきれずに、まだ手元にある。

社会人となって結婚、子育てと、山へ登る機会など全くない時代を過ごし、四十代後半からまた登り始め、縁あって日本山岳会に平成四年に入会した。その年の年次晩餐会に初めて参加し、落ち着き無くあたりを見回していたら、見覚えのある方がいらした。記憶を辿って、あの時指導して頂いた保坂さんだと気づき、遠慮しながらお声をかけたら、ご本人であった。

平成十一年、秋田支部設立四十周年記念誌の「会員列伝」や設立以来の「会員名簿」をワープロへの打ち込みを依頼され、校正等で親しくお声をかけて頂くようになり、保坂さんが帰秋の際には、支部の方々との懇親会にも参加させて頂いた。

保坂さんには、高校時代の懐かしい思い出と共に、支部運営のご指導を頂きました事に深く感謝致しております。心からご冥福をお祈り致します。(合唱)

山岳古道調査情報

・矢島街道について本会理事からの五月二十九日の連絡を要約。
「矢島街道、由利本荘〜真室川への街道は、特にその中の皿川〜甕峠〜鏡沢は歴史・距離などで山岳古道の条件を満たし、ブナ林を楽しむことができる道。これからの課題となるが、百二十に入れるかどうか検討中」とのこと。

・七月十四日八時から鳥海山古道についてオンライン会議開催

本会からは、矢島口の木境から被川までの登拝道を調査。その他についてはコラム等での掲載も考えている。

記載方法として、山岳古道は山道が中心で、コンクリートの道はコラム等にする等、実際の調査票の記入法等の指導があった。

本会の担当は高橋潤一会員(北秋田市出身。調査は十月十七日(月)の予定。

出席者

本部 永田幸太郎 松本博子
秋田支部 佐藤助雄 三浦昭男

鈴木裕子

※全国山岳古道調査

日本山岳会百二十周年記念事業調査期間は令和三〜令和七年度全国で百二十の古道を調査予定

乳頭温泉郷 秋の支部山行 高橋吉一

秋の支部山行は、鶴の湯を出発して乳頭温泉郷を巡り鶴の湯に帰るルートで行った。

このコースは、新奥の細道の「先達溪谷出で湯のみち」として紹介されている。

鶴の湯から蟹場温泉までの旧道を新奥の細道として整備した3・5km、蟹場温泉から大釜温泉・孫六温泉・黒湯温泉・休暇村までの湯めぐりコース2・7km、休暇村からキャンプ場経由し鶴の湯温泉までの旧道コース3・2km、全行程約9・4km 標高差は約200mである。

十月一日(土)、会員外も含め総勢二十五名、秋晴れの中、佐藤支部長の挨拶、鎌田副支部長の注意事項の後、鶴の湯温泉前で集合写真を撮ってから、九時に出発。

鶴の湯温泉から神社を少し過ぎて湯ノ沢を渡り、ゆつくりと杉林を登りきると駒見峠に出る。

ここから右手に駒ヶ岳を眺めながら、ダケカンバやミズナラの林を抜け、歩道が不安定なところもあつたが、杉林を下り、先達川の支流を渡ると蟹場温泉に着く。

ここには沢蟹が多かったことからその名前が付けられ、最近は見

つけることができなかつたが、今日は小沢で沢蟹を見つけることができた。

蟹場から孫六温泉までは、先達川沿いを工事用道路として利用された道を進み、黒湯まで。

紅葉の始まりと土曜日のせい、かの温泉の駐車場も、県内外のナンバーを付けた車でほぼ満車状態であつた。

黒湯から休暇村までは、市道黒湯線を通る。市道沿いには空吹湿原までのブナの純林の散策路がある。まもなく休暇村に着き、芝生に腰を下ろしての昼食。

午後一時、休暇村を出発。休暇村のスキー場(元乳頭スキー場)から紅葉が始まつた乳頭山を見ることができ、ブナの二次林の遊歩道を下り、途中、山菜のミズを探りながら歩く会員もおり、楽しみながら乳頭キャンプ場着。

県道西山生保内線を横断、先達川の吊り橋を渡り、ツアールの森を通り、鶴の湯に午後二時二十分頃、参加者全員無事に到着。

佐藤支部長の出迎えを受け、温泉に入り、冷たい飲み物等を頂く。疲れた足に温かい温泉が心地よかつた。

今回のコースは、中高年向きコースとなつていたが、少しハードな行程であつたと思う。

私にとつて一部初めてのコースでもあり、改めてこの地域の自然の豊かさを再確認した。

このエリアは新緑のブナ林散策、冬のブナ林はスノーハイイクができます。また別の季節に皆さんで山行したいものです。

※ツアールの森はドイツ大使館のカールツアールさんがこの森(乳頭温泉郷鶴の湯周辺のブナの森)を訪れた時、その植生の豊かさに変化にとんだ風景を絶賛したことちなんでもう呼ばれている。



鶴の湯温泉前で集合写真



先達川に架かる吊り橋



ブナ二次林の遊歩道を歩く

- 参加者**
- 佐々木民秀 田口善信 佐藤和志
 - 今野昌雄 柳田勇悦 鈴木裕子
 - 鎌田倫夫 佐藤博 後藤浩二
 - 佐藤英實 三浦昭男 高橋吉一
 - 鈴木加代子 小松芳美 畠山靖
 - 会員外 柳田ルイ子他十一名

新入会員紹介

高橋 雄悦 (六十才)

会員番号 一六九七四

居住地 秋田市

入会 令和四年七月

紹介者 鈴木裕子 鎌田倫夫

本会通常総会

六月十八日(土)午後二時から、アルカディア市ヶ谷で開催。

総会を中継するZoomのURLを傍聴した。

新型コロナウイルス感染状況から募集されることはなく、委任状提出、議決権行使で行われた。

総会出席者は二十七名、委任者、議決権行使者を含め合計二五九〇名、会員の過半数で総会は成立。

進行は柏谷澄子常務理事。議案はいずれも原案通り可決、承認された。(会報「山」七月号参照)

会長は、ウイズコロナのなかで、どのように会の運営、登山活動を継続していくか、登山教室や講習会の機会が減となったことも、入会者の減につながったと思う。又、入会した会員の満足度、個々の会員の満足度が問われる、と要旨で述べている。

会員からの質問への回答(抜粋) 質問者 佐々木民秀永年会員 (五七四八)

①登山道調査等国土地理院との連携事業について、これまでの実績など、その進捗状況を会報に報告していただきたい。

回答 国土地理院と話し合いをしている。

②資金が不足であれば「会報」や「山岳」のページを減らしてもいいのでは?

回答 印刷は最低価格でお願いしている。ページ減としても価格は変わらない。その他。

令和五年度の全国支部懇談会は、群馬支部の設立十周年を記念して、九月三十日〜十月一日、水上温泉で開催の予定。また、東北・北海道地区集会は、青森支部担当で、七月一日〜二日、階上山、種差海岸散策で行う予定。総会は、午後四時閉会した。(傍聴 鈴木裕子)

訃報

元会員 鈴木清 さん (横手市)

元秋田県山岳連盟会長

令和四年七月十日逝去

(享年八十八才)

冥福をお祈り申し上げます

会員数情報

令和三年度末

◎会員数

四五一四名

名誉会員

四名

永年会員

四五八名

終身会員

一八名

通常会員

三六四五名

青年会員

五〇名

家族会員

一二八名

団体会員

七四名

◎準会員

二五〇名

秋田支部会員数

四十七名

(令和四年四月一日現在)

「国立公園範囲拡張候補地・八幡平周辺地区今後について」の勉強会「開かれる」

七月十三日(水) 午後三時から打当温泉マタギの湯「マタギホール」で開催。

秋田内陸縦貫鉄道(株)社長

NPO法人森吉山理事長

他十五名参加。

秋田支部参加者

佐藤和志支部長

鎌田倫夫副支部長

秋田県山岳連盟総会

四月三十日 午後一時からイヤタカ会館で開催。

秋田支部関係出席者

今野昌雄 後藤浩二 高橋吉一 畠山靖

中央地区山岳協議会総会

六月十五日 書面表決 全ての議案について原案のとおり可決。

会務報告

○事務局会議

・四月二十八日午後一時、秋田市北部市民サービスセンターで開催。会費納入のお願い、山行案内等郵送。

・五月二十日午後一時、秋田市北部市民サービスセンターで開催。会報百二十二号等発送。

支部山行、秋田街道調査等の打ち合わせ。

・七月二十二日午後一時、秋田市北部市民サービスセンターで開催。会報百二十三号等発送。

・八月三十日午後一時、秋田市北部市民サービスセンターで開催。秋の山行案内等発送。

出席者 鎌田倫夫 後藤浩二 三浦昭男 鈴木裕子